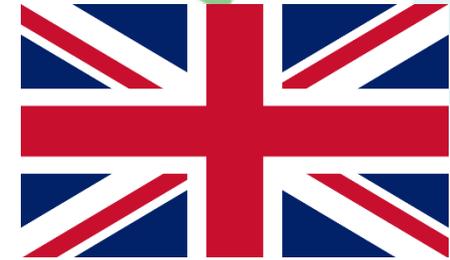


#StayHome From 甘楽中図書館#3 2020/5/1

おうちで本を読もう！

～ 「人って大変、でも人ってすばらしい」を感じてみよう！ ～



① 「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」(プレイティみかこ著、新潮社)

「でも多様性っていいことなんでしょ？学校でそう教わったけど。」

「うん」

「じゃあ、どうして多様性があるとややこしくなるの」

「多様性ってやつは物事をややこしくするし、喧嘩や衝突が絶えないし、そりゃないほうが楽よ。」

「楽じゃないものがどうしていいの？」

「楽ばっかりしていると、無知になるから。」

白人の子たちばかりがひしめく、イギリスの公立中学校に入学したアジア系の「ぼく」。差別や偏見が渦巻く学校で、それでも他者への「共感 (=empathy)」を学び、たくましく成長していく。

イギリスの中学校ってこんななんだ！という発見と、差別や偏見と格闘する同じ中学生の悩み多き日常がとても楽しい。今、超話題の本！親子で読んで楽しむはず。ぜひどうぞ。

② 「木を植えた男」(ジャン・ジャック・ジオノ原作、あすなろ書房)

フランス郊外の不毛の地に黙々と木を植えた男の話。

～木のない土地は、死んだも同然。せめて、良き伴侶を持たせなければ…

どんな過酷な時代でも、黙々と自分の仕事をやり続けた男。小さな人がもたらす、大きな功績。「わたしはやはり、人間のすばらしさをたたえずにはいられない。」という筆者の思いをぜひ共有してください。

